

経営比較分析表（令和元年度決算）

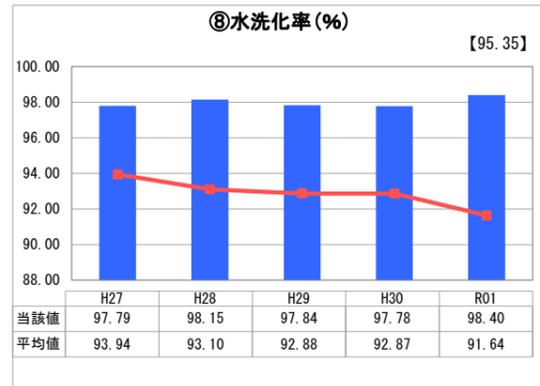
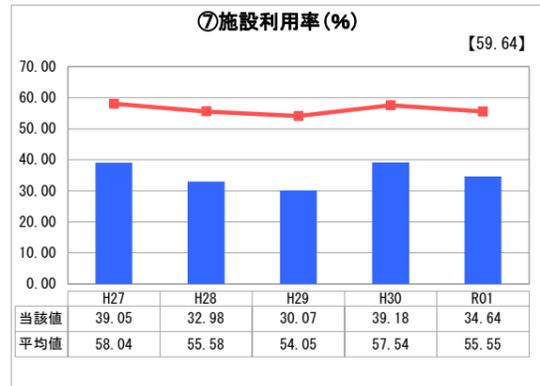
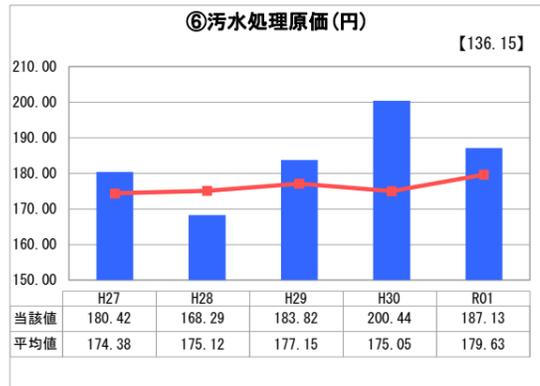
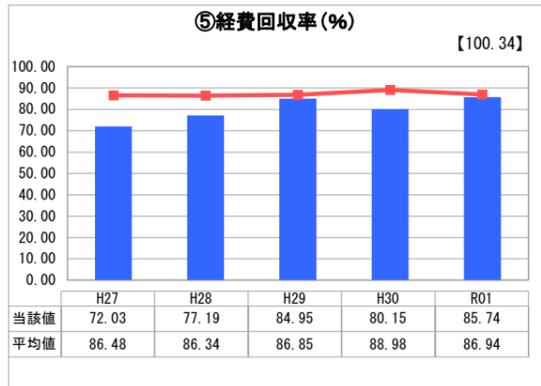
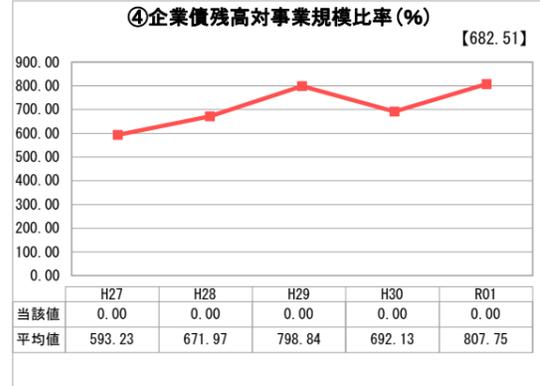
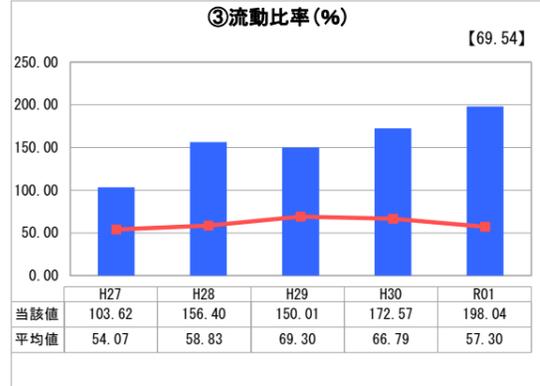
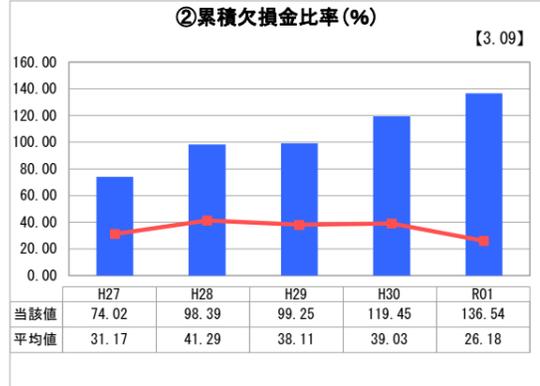
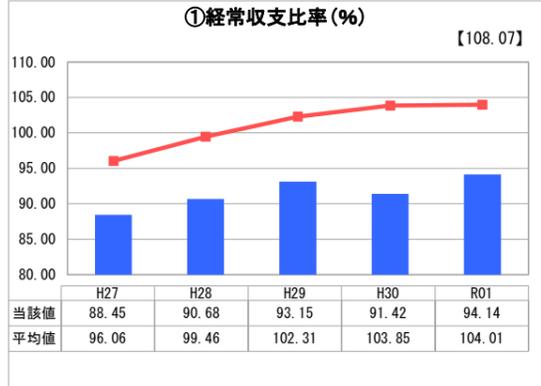
岡山県 勝央町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	公共下水道	Cd1	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	71.25	51.35	83.86	2,860

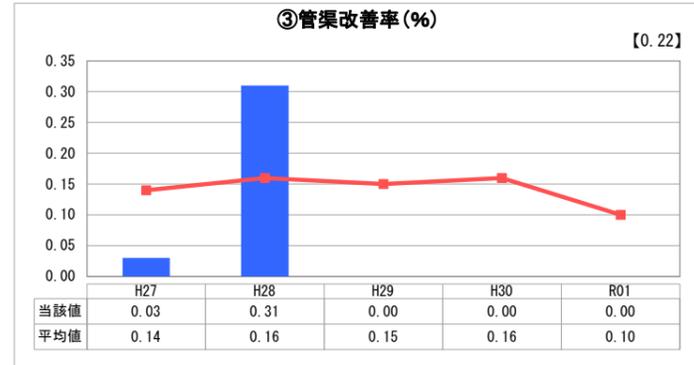
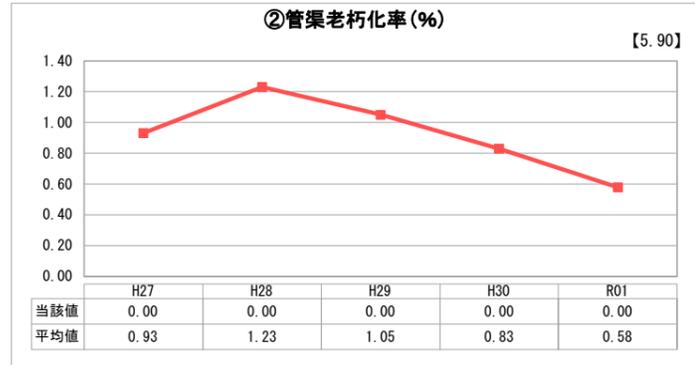
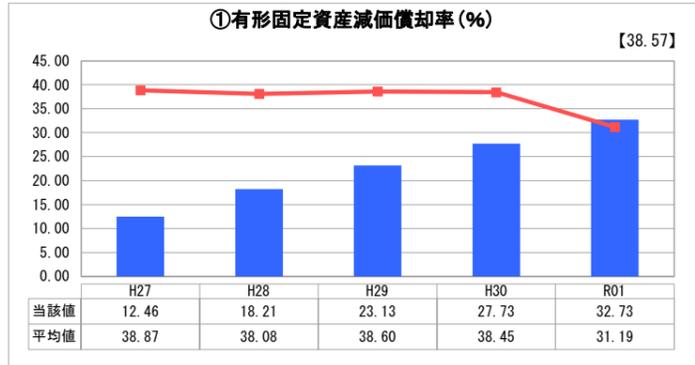
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
11,092	54.05	205.22
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
5,704	4.94	1,154.66

グラフ凡例	
■	当該団体値（当該値）
—	類似団体平均値（平均値）
【	令和元年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

- ①使用料収入等の経常収益で、維持管理費や支払利息等の経常費用をどの程度賄えているかを表す指標。資本費（減価償却費）が大きいため収益で賄えていない。
- ②営業収益に対する累積欠損金の状況を表す指標。通常修繕やシステム更新等により欠損金が増加している。類似団体平均よりも高くなっている。
- ③短期的な債務に対する支払能力を表す指標。類似団体と比較して高い数値になっており、100%を上回っている。
- ④一般会計の負担により0%となっている。
- ⑤使用料で回収すべき経費を、どの程度使用料で賄えているかを表した指標。汚水処理費が高い割に使用料単価が低くなっており、十分な使用料水準ではないため、適正な使用料単価への見直しが必要。
- ⑥有収水量1m³あたりの汚水処理に要した費用。類似団体平均と比較して汚水処理費が高くなっており、施設の効率化や維持管理費削減の必要がある。
- ⑦晴天時一日平均処理水量を現在処理能力で除した数値で、施設がどの程度利用されているかを表した指標。主に工業団地からの流量の減量認定、各家庭の節水等により減少している。
- ⑧処理区域内人口のうち、実際に水洗便所を設置して汚水処理している人口の割合を表した指標。下水道整備が完了し水洗化もほぼ終わっている。残りの未水洗化宅も徐々に接続が進んでいる。

2. 老朽化の状況について

- ①有形固定資産のうち償却対象資産の減価償却がどの程度進んでいるかを表す指標。供用開始から30年以上経過しており、法定耐用年数に近づいている施設もあるため、平成22年度から長寿命化計画を策定し、改築及び維持管理を行っている。
- ②法定耐用年数を超えた管渠延長の割合を表した指標。法定耐用年数を超えた管渠はない。
- ③当該年度に更新した管渠延長の割合を表した指標。カメラ調査等で腐食等による改修により改善率が上がっている。今後は、適切な長期の計画として、経営戦略、ストックマネジメントの実施を行い、計画的に施設更新を行う予定。

全体総括

人口減少の影響で使用料の増加が見込めない中で、現在の使用料収入では処理費を賄えていない状況が続いている。さらに今後も施設の老朽化に伴い改築更新等の工事が発生している。健全な経営を行っていくためには、今後の町の在り方、近隣市町村との連携を見直しを行うこと。それに見合った施設に変更し、コスト削減を合理的に進めていくとともに、下水道使用料の改定を視野に入れた財源の確保を図っていく必要がある。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。